

第3章 景観まちづくりの進め方

地域住民が主役の景観まちづくりをコーディネートし、良好な景観と活力ある地域社会の形成を目指します。

■地域特性・景観特性の把握,方針設定のためのワークショップの例

★ワークショップの例：「まちの宝探し」

地図を持って班毎に歩き、まちをあらためて見直し、良いところや改善したいところなどを探します。

街道沿いの歴史的な街並みを残したい

商店街の活気を取り戻したい

山の景観と棚田の風景は地域の誇り！



★ワークショップの展開イメージ

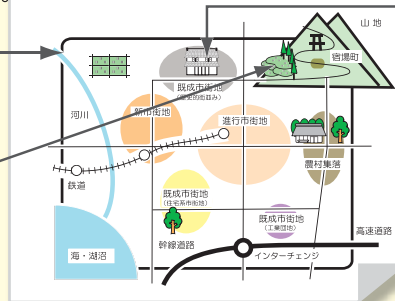
地域ごとの特性や景観特性から、景観計画区域や地区の設定、テーマづくりを行ない、さらにまちづくり活動に展開します。

景観計画区域

行政区域全体

地区①のテーマ

棚田を残し活用



地区②のテーマ

歴史的街並みを再生

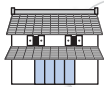
まちづくり活動へ

- ・ガイドマップづくり
- ・ボランティアガイド育成
- ・ウォーキングラリーの開催

■景観重要建造物・樹木の指定の方針,景観重要公共施設の整備の方針を設定するためのワークショップの例

★ワークショップの例：「景観資源マップ」

まち歩きで確認してきた景観資源をマップの中に示して大切にしたいものについてそれぞれの特徴をまとめます。



歴史を感じさせる蔵造りの建物



毎年花見を楽しむ地域の名所の桜



農村風景に欠かせない茅葺住宅



★ワークショップの展開イメージ

景観上重要と思われる建造物や樹木、公共施設を選定し、さらに所有者も含めてどのように保全・活用すべきかを検討しながら、展開していきます。

景観上重要な建造物

歴史のある蔵

保存・活用のアイデア

- ・街並み資料館としては？
- ・観光案内所としては？
- ・音楽会を開催しては？

景観重要建造物指定



専門家を交えた保全・活用の検討イメージ